

児童生徒アンケート結果と分析

～全国学校図書館協議会の調査データとの比較から～



調査概要

◆ 調査者

◆ 毎日新聞社と公益社団法人 全国学校図書館協議会で共同実施

◆ 2017年で63回

◆ 調査時期

◆ 6月第1・2週

◆ 調査者

◆ 一般社団法人電子出版制作・流通協議会と専修大学電子書籍研究プロジェクト

◆ 調査時期

◆ 2016年10月・11月

調査概要

◆ 調査対象 (2016年)

◆ 大・中・小都市・郡部 サンプル校抽出

◆ 高校…

◆ 全日制課程のみ学科ごとサンプル校抽出

◆ 小学生 (4・5・6年生)

◆ 2,733名

◆ 中学生 (1・2・3年生)

◆ 2,914名

◆ 高校生 (1・2・3年生)

◆ 3,064名

■ 調査対象

■ ランダム抽出

■ 調査数 1,825名

■ 小学生4～6年生

■ 中学生

■ 高校生

調査概要 児童生徒向けアンケート

■ 設問

■ 5月1か月間に、本を何冊読みましたか？

■ 設問

■ (アンケート調査実施時に、特に何月かを指定しないで)

■ 1か月に何冊くらい本や雑誌を読みますか？

■ 本 ()

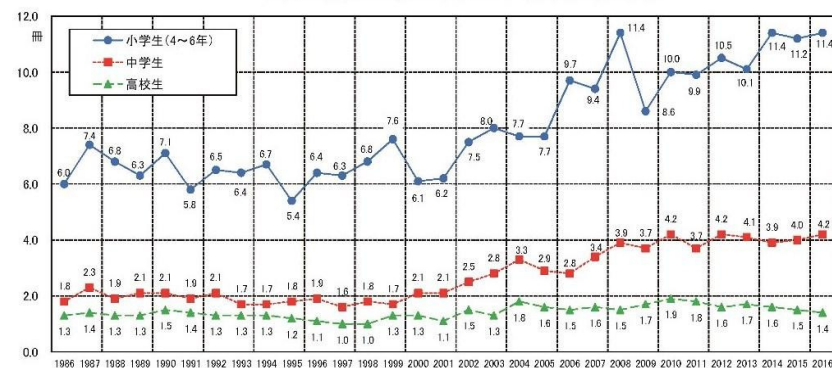
■ 雑誌・マンガ誌 ()

■ コミックス ()

1 か月間の平均読書冊数

平均読書冊数 (全国SLA・毎日新聞社 読書調査データから)

過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



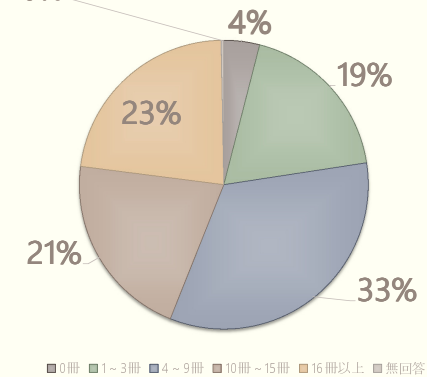
平均読書冊数

- 小学生
 - ここ5~6年、10~11冊で推移
- 中学生
 - 2008年頃から緩やかに右肩上がり
- 高校生
 - ほぼ横ばい
 - ここ4年、減少傾向が見られる

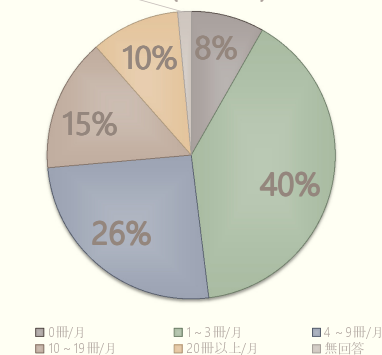
	2006年 (H18)	2016年 (H28)
小学生	9.7冊	11.4冊
中学生	2.8冊	4.2冊
高校生	1.5冊	1.4冊

小学校高学年の読書量

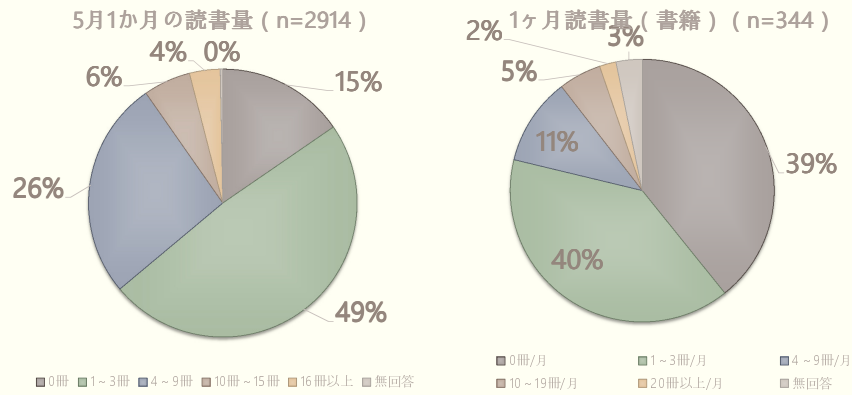
0% 5月1か月間の読書量 (n=2733)



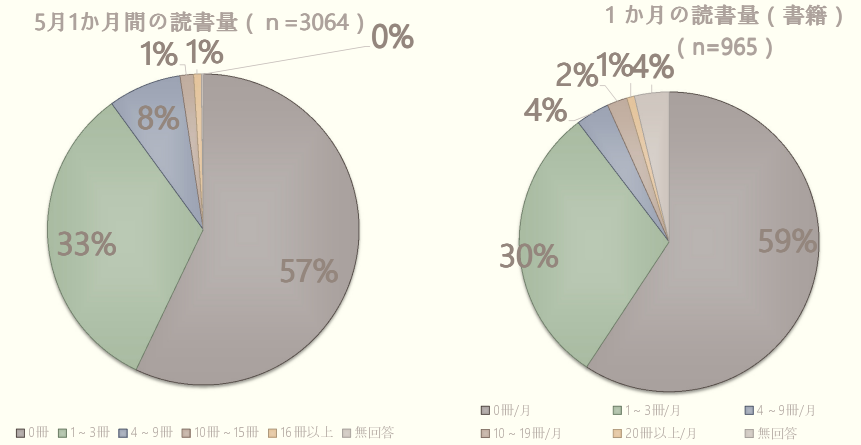
1% 【1-1】1か月の読書量 (n=462)



中学生の読書量

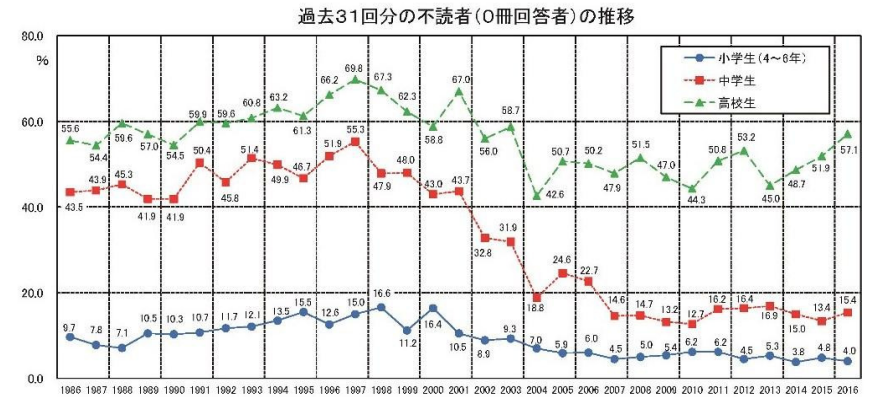


高校生の読書量

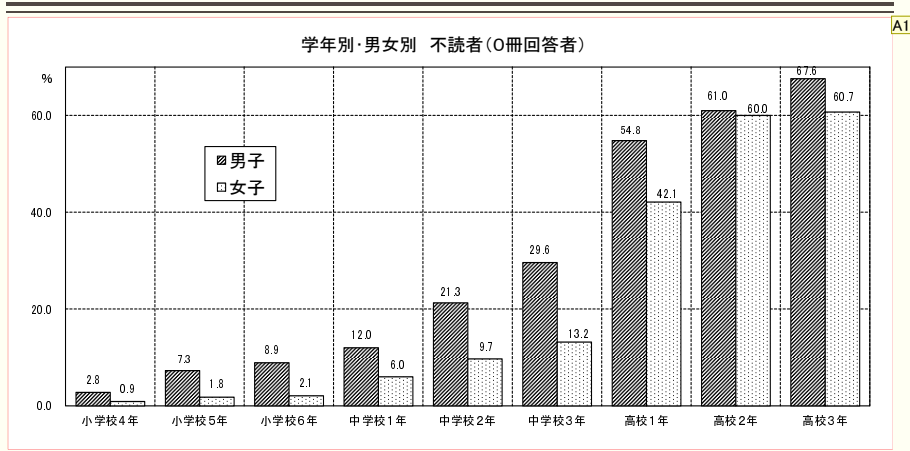


1 か月間の不読者数

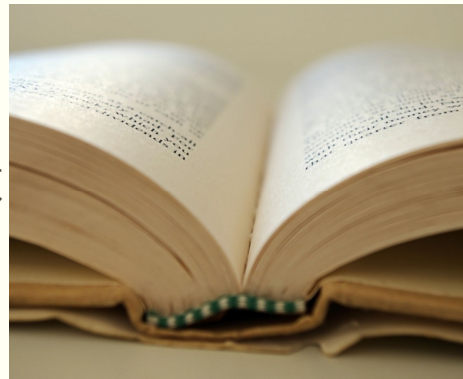
不読者 (0冊回答者) の推移 (全国SLA・毎日新聞社調査データから)



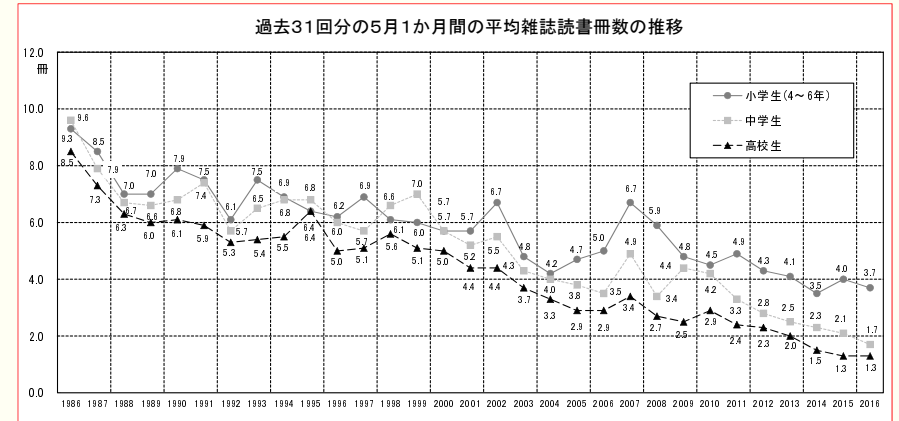
学年別・男女別不読者（0回答者）
 （機関誌『学校図書館』2016年11月号）



1 か月間の平均雑誌読書冊数



過去31回分の5月1か月間の平均雑誌読書冊数の推移
 （機関誌『学校図書館』2016年11月号）



「学校読書調査」から 1 か月間に読んだ雑誌

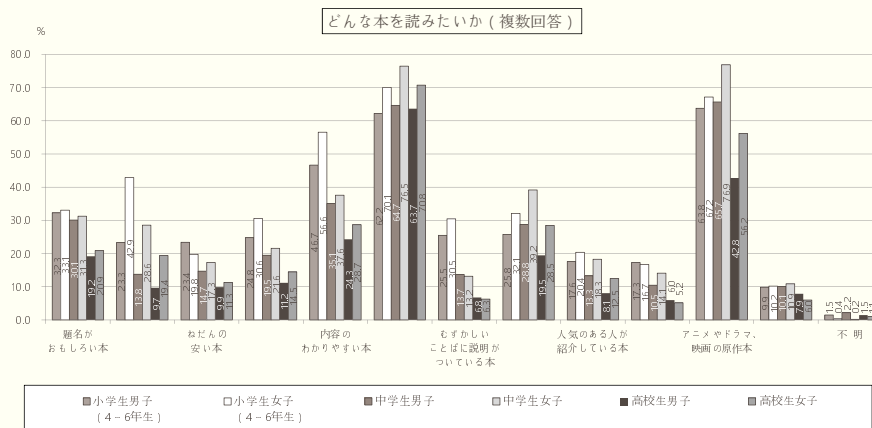
- 雑誌を読む数の減少
- 情報を得るのも、暇つぶしも
- スマートフォンやタブレットなど
- 格差社会
- 人間関係が希薄になってきている
- ↓
- 自分にプラスにならない情報は知らない。
- 思い切った贅沢はするけど、余分なお金は使いたくない

1か月に読んだ雑誌数	2006年 (平成18年)	2016年 (平成28年)
小学生	5.0冊	3.7冊
中学生	3.5冊	1.7冊
高校生	2.9冊	1.3冊

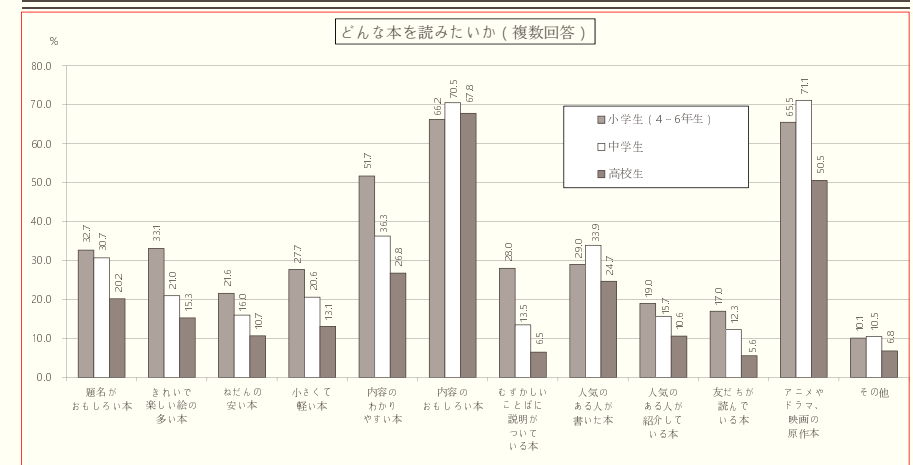
どんな本が読みたいですか？



どんな本が読みたいか？（機関誌『学校図書館』2016年11月号）



どんな本が読みたいか？（機関誌『学校図書館』2016年11月号）



どんな本が読みたいか？

- 内容のおもしろい本
 - ……全校種 70%
- 読書することにおもしろさ・楽しさを求めている。
- 日常の選書 …… 娯楽的要素が強い傾向
- アニメやドラマ、映画の原作本
- 鑑賞の前後に読むか？
- メディアの宣伝効果か？
-



どんな本が読みたいか？

- 内容の分かりやすい本
- 小学生 50%強
- 中学生 36.3%
- 高校生 26.8%
-
- 成長するにつれ、趣味や興味関心が専門的になり
- 多少難しくても読むとする
- 読む力もついている



児童生徒は、…

- 児童・生徒は、「電子書籍」を読むことを、「読書」ととらえているのだろうか？
- ↓
- 児童生徒の「読書」に対する概念を再構築することが必要



子どもにとって読書をする意義

- **読書**…
- 2004年2月文化審議会「これからの時代に求められる国語力について」
- * 読書とは、文学作品を読むことに限らず、自然科学・
- 社会科学関係の本や新聞を読んだり、何かを調べる
- ために関係する本を読んだりすることなども含めたもの
- である。



子どもにとって読書をする意義

■ 2008・2009年版の学習指導要領

- 中学校学習指導要領 国語 「C 読むこと」
- 読書と情報活用に関する事項があげられている。
- 解説より
 - ここでいう「読書」とは、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいる。そして、それらの本や文章などから得た内容を「情報」としている。



■ 学校での読書は、「読み物を中心とした読書」「調べるための読書」の双方の指導が必要

子どもにとって読書をする意義 『読書と豊かな人間性』堀川照代（全国SLA編集発行）

■ 読む行為を通して得られるもの

- 1) ことばを学ぶ、読むことを学ぶ
 - 文字を身につけ、書き言葉に慣れる、4読む技術を身につける。
- 2) 想像力・思考力・判断力などが育成される。
- 3) 情報を使う力が育成される。
- 4) 知識や情報を得る。

子どもにとって読書をする意義 『読書と豊かな人間性』堀川照代（全国SLA編集発行）

■ 読んだ内容を通して得られるもの

- 5) 「生きる」ための知恵を得る。
 - 物語や昔話から、人生とはどういうものか、社会で生きていくためにはどうしたらいいか、知恵を得ていく。
- 6) 心のごっこ遊びを体験する。
 - 人の行動や感情を疑似体験し、豊かな喜怒哀楽をもちながら、状況に応じてそれを抑える力を育てる。
- 7) もう1つの世界と出会う。
 - 物語の世界で多くのことに気づき、その積み重ねが人としての成長を促す。

これからの子どもの読書と電子書籍の持つ可能性

- 2011年（H23）
 - 「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」(文科省)
 - 多様なメディアを活用した学習・情報センターとしての学校図書館の機能
- 2016年（H28）11月29日付 文科省 → 教育委員会 通知
 - 「学校図書館ガイドライン」
 - 電子資料（CD-ROM、ネットワーク情報資源（ネットワークを介して得られる情報コンテンツ）等…
 - **電子書籍も、学校図書館メディアの1つとして！**

これからの子どもの読書と電子書籍の持つ可能性

■【学校図書館として課題】

- 教職員・・・電子書籍はじめ電子メディアの経験が浅い
- ↓
- 抵抗感がある（若い人は、少ないか？）
- **可能性：授業での活用が1つの鍵ではないか？**
- **「研修カリキュラム」等に基づく教員の研修でスキルアップ**
- 学校内の組織・・・電子書籍担当の校務分掌をどうするか。
- 学校図書館担当？
- 情報教育担当？
- **課題解決の方向：校務分掌を一体化する**
- 時代の潮流をみる校長の力量も問われる



これからの子どもの読書と電子書籍の持つ可能性

■【学校図書館としての課題】

- 備品・・・電子書籍リーダーがない。
- 購入予算がない。
- 支払い方法は、どうするのだろう？
- セキュリティは？
- 故障したらどうするか？
- **※予算的な部分は、国など行政のバックアップが必要**
- スウェーデン・・・電子マネーでの支払い
- 人件費、送料等々の削減 → 安価で手に入るか？



これからの子どもの読書と電子書籍の持つ可能性

■ 選書・・・

- 内容を精査して、学校図書館の蔵書とするのだが・・・。
- 電子書籍の選書基準の策定（学校ごとに）

■ 特別支援教育における可能性

- ※ここは、野口先生

■ ※学校図書館としては、

- 紙の本の良さ・電子書籍の良さ
- 両方の良さを生かして

